

特別会計の決算状況

特別会計って何？

特別会計とは、特定の事業を行う場合や特定の収入で事業を行う必要がある場合に、一般会計と区分して経理をするため、条例で設置するものです。

特別会計で管理することにより、受益と負担の関係や事業ごとの収支をより明確にすることができる、適正な受益者負担、事業収入の確保や歳出削減努力を進めることができる——などのメリットがあります。

本町の特別会計は国民健康保険、老人保健、介護保険（事業勘定）、介護保険（サービス事業勘定）、簡易水道事業、漁業集落排水処理事業、公共下水道事業の7会計です。なお、平成18年度から土地取得事業特別会計が廃止され、介護保険（サービス事業勘定）が新設されました。

全特別会計の総額は歳入62億4,665万円、歳出61億2,995万円で、差し引き1億1,670万円が19年度に繰り越されています。

各会計の主な支出額

▷国民健康保険 保険給付費17億745万円、老人保健医療費拠出金3億8,898万円

▷老人保健 医療給付費17億7,268万円

▷介護保険（事業勘定） 保険給付費11億3,609万円

▷介護保険（サービス事業勘定） 居宅介護支援事業費112万円

▷簡易水道事業 配水管布設替工事費3,255万円

▷漁業集落排水処理事業 下水管渠布設工事費705万円

▷公共下水道事業 山田地区下水道管渠等設計委託料2,000万円、山田地区下水道整備工事費1億8,200万円

◆特別会計の決算額

名称	歳入	歳出
国民健康保険	25億6,815万円	25億1,880万円
老人保健	18億526万円	18億524万円
介護保険（事業勘定）	12億6,715万円	12億477万円
介護保険（サービス事業勘定）	129万円	112万円
簡易水道事業	8,519万円	8,279万円
漁業集落排水処理事業	1億4,719万円	1億4,594万円
公共下水道事業	3億7,242万円	3億7,129万円

平成18年度の一般会計と特別会計決算が9月5日から12日まで開催された町議会定例会で認定されました。皆さんが納めた税金などがどのくらい入り、どのような事業に使われたのか見てみましょう。

年々さらに厳しさを増す財政状況の中、より一層の経常経費（人件費や物件費など）の削減に努めながら、今日の複雑多様化する行政需要に対応した町づくりを進められています。



主な事業の決算額 (単位：万円)

民生費	重度心身障害者医療費給付費4,366 身体障害者支援費4,481 知的障害者福祉費18,941 老人福祉費38,310 (老人保護措置委託料1,403、平安荘整備補助金2,000) 児童福祉費69,546 (民間保育所運営委託料28,223、小学校修了前特例給付金10,531、母子家庭等医療費給付費1,285)、子育て支援事業費2,475
土木費	道路新設改良費6,001 (長林大浦線改良工事費5,442) 町道維持補修工事費3,500 土地区画整理費51,821 (細浦柳沢線整備工事費1,843、整地等工事費4,437、街路等整備工事費4,675、建物等移転補償費37,259) 町営住宅環境整備工事費1,664 住宅市街地等整備工事費1,627
総務費	行政長報酬1,846 定期路線バス運行委託料1,364 広報やまだ印刷製本費716 各種電算機器等保守委託料758 国土調査費1,092 県知事県議選挙費537
公債費	町債元金償還金81,733 町債利子償還金18,720
教育費	大浦小屋根等施設整備工事費2,326 小・中学校パソコンリース料2,811 スクールバス運行委託料1,248 海外研修旅行業務等委託料839
農林水産業費	林業振興費3,179 (部分林組合分収造林売払交付金2,102、森林整備地域活動交付金600) 田の浜地区漁業集落環境整備事業費4,050 (集落道改良工事費1,599、緑地広場整備工事費1,334) 大沢漁業集落環境整備事業集落道改良工事費3,100
衛生費	老人保健費4,673 (各種検診委託料4,120) リサイクル資源回収事業報償金458 斎場火葬炉補修工事費822 浄化槽設置整備事業補助金291 宮古地区広域行政組合(衛生関係)負担金28,439
消防費	宮古地区広域行政組合(消防関係)負担金31,564 非常勤消防費3,750 防火水槽築造工事費(飯岡地区)484
商工費	山田の魅力発信実行委員会補助金500 商工会事業運営費補助金500 旅行村管理費2,439
議会費	議員報酬5,103 議会だより発行248
災害復旧費	農林水産業施設災害復旧費575 土木施設災害復旧費2,778 その他公共施設災害復旧費96
労働費	出稼ご者健康診断委託料31

が土木費の11億2,850万円、前年度と比べると20.6%の減となりました。これは、町営住宅柳沢団地建設事業の見直しや堆肥センター建設工事の完了などによるものです。土木費の主な使い道は、土地区画整理費5億1,821万円、道路新設改良費6,001万円などがあります。

投資的経費が3.5ポイント減

一般会計の歳出を性質別に分けたものが4ページの図1です。公共施設の建設や道路整備など、わたしたちの快適な暮らしを実現のために使われた投資的経費の割合は14.0%で、前年度と比べると3.5ポイント減少となりました。消費的経費は57.0%で、そのうち人件費が25.1%、各種機関や団体などへの負担金補助金を支出する補助費が12.0%、未就学児の福祉や医療費(福祉的要素の強いもの)に充てる扶助費は10.9%でした。事務費や各種検診の委託料などに充てる物件費が8.3%、公債費は14.7%で、前年度に比べ0.7ポイント増加しました。

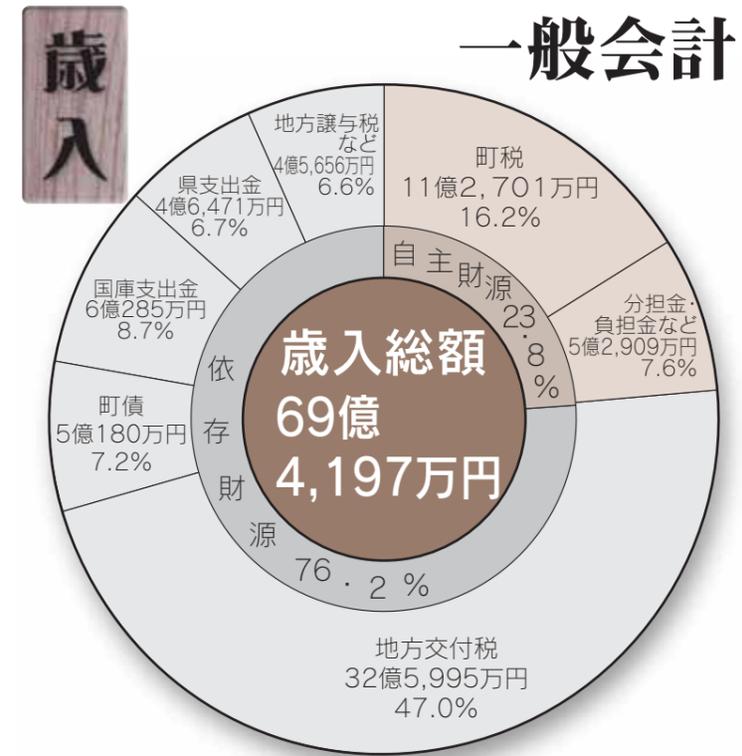
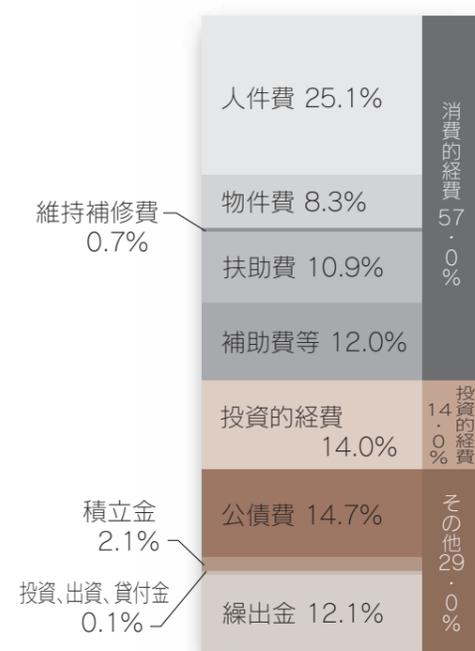
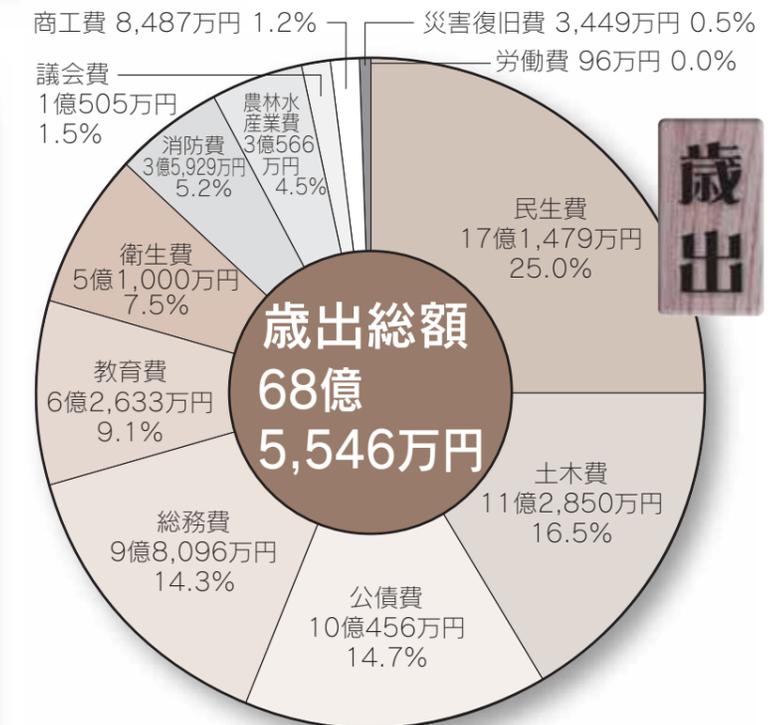


図1 性質別支出の割合



歳出の総額は68億5,546万円、前年度と比べ土木費がおよそ3億円の減、農林水産業費が4,900万円の減、全体としてはマイナス2.1%、総額1億4,390万円の減となりました。項目別に見ると最も多く支出されたのが民生費で17億1,479万円、前年度比3.6%の増となりました。主な使い道としては児童福祉費の6億9,546万円、老人福祉費3億8,310万円があります。続いて多いの



歳入は前年度比3億円減

平成18年度の一般会計の歳入総額は69億4,197万円、前年度比2.7%の減でした。性質別に見ると、町が独自に確保できる自主財源(町税・使用料・手数料など)は全体の23.8%となっており、一方、国や県から配分されるお金や町債(町が資金調達のため政府や銀行から借りたお金)などの依存財源の割合は76.2%。前年度と比べると総額で3億5,94万円の減となっています。項目別では、国からの地方交付税が最も多く32億5,995万円、歳入全体の47.0%を占めており、前年度比プラス0.8%と、2年連続の微増となっています。

歳出は土木費が20%の減

歳出の総額は68億5,546万円、前年度と比べ土木費がおよそ3億円の減、農林水産業費が4,900万円の減、全体としてはマイナス2.1%、総額1億4,390万円の減となりました。項目別に見ると最も多く支出されたのが民生費で17億1,479万円、前年度比3.6%の増となりました。主な使い道としては児童福祉費の6億9,546万円、老人福祉費3億8,310万円があります。続いて多いの